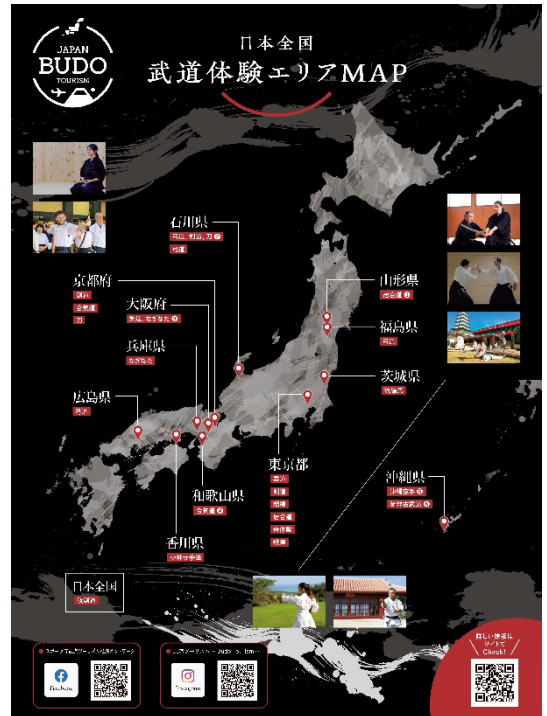


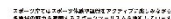
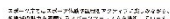
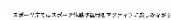
ポスター

WEBサイトの武道ツーリズムページをベースに制作。
 武道ツーリズムの紹介1種類、武道ツーリズム日本マップ1種類、特集記事が
 掲載されている6事業者のコンテンツ紹介ポスター6種類を、日本語／英語で制作。
 掲載されているQRコードからJAPAN SPORT TOURISM WEBサイトの
 武道ツーリズムページへ誘引。
 2/26シンガポールでの長官講演会、3/20アメリカンクラブイベントで掲載。

●日本語版



スポーツなど、スポーツ施設や公園でアパレルの売り込みが、
各社より熱心な展開。ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）



ポスター

● 英語版



JAPAN BUDO TOURISM

What is BUDO Tourism?
It is a rare form of tourism fusing sports and culture (traditional and spiritual culture) that "can only be experienced in Japan," "where it originated."

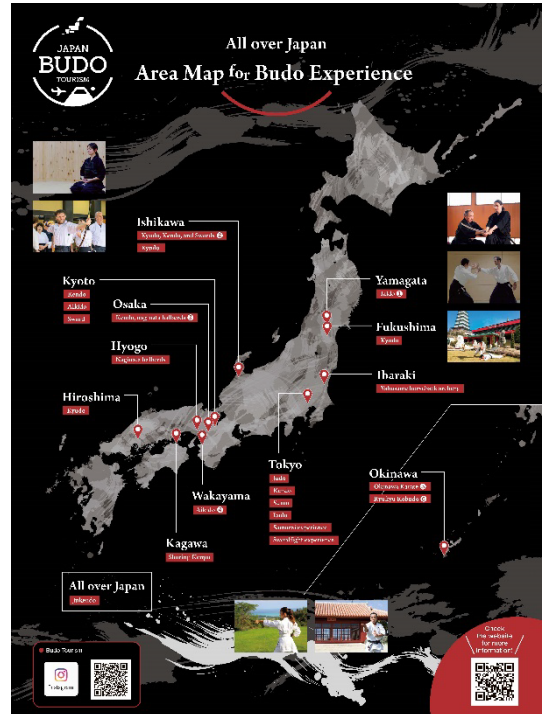
Attractiveness of Budo tourism

01 Diverse budo from ancient Japan
02 Tune up your mind, technique and physique by experiencing the spirituality of budo
03 Fusion of budo and attractive sightseeing spots

Check the website for more information!
The Budo Tourism Agency "JAPAN BUDO TOURISM" website contains a variety of information, including spots where you can actually enjoy Japanese budo and a detailed travel guide on Budo tourism.

JAPAN SPORTS AGENCY

The Sports Agency promotes sports tourism, in collaboration with the Japan Sports Commission and the Japan Sports Association, to support the development of sports tourism in the country, regionally and internationally.



JAPAN BUDO TOURISM

All over Japan Area Map for Budo Experience

Regions highlighted: Ishikawa (Toyohashi, Kanazawa, Ishikawa), Kyoto (Kyoto, Uji, Maibara), Osaka (Osaka, Suita, Toyonaka), Hyogo (Himeji, Kobe, Futatabi), Hiroshima (Hiroshima, Miyajima), Yamagata (Yamagata, Maebashi), Fukushima (Fukushima, Maebashi), Ibaraki (Utsunomiya, Maebashi), Tokyo (Tokyo, Maebashi), Okinawa (Naha, Maebashi), Wakayama (Wakayama, Maebashi), Kagawa (Takamatsu, Maebashi).

All over Japan (Japan)

Check the website for more information!

JAPAN SPORTS AGENCY

The Sports Agency promotes sports tourism, in collaboration with the Japan Sports Commission and the Japan Sports Association, to support the development of sports tourism in the country, regionally and internationally.



JAPAN BUDO TOURISM

Iaido

Yamagata Prefecture
Murayama Iai Shinbukan

Iaido was founded by Ogasawara Haki to train samurai spirit and spirit. In 1974, the Murayama Iai Shinbukan was founded in 1974 in Murayama City, Yamagata Prefecture. The center has a large dojo and a museum. The center also offers Iaido courses for foreigners. The center also offers Iaido courses for foreigners. The center also offers Iaido courses for foreigners.

Check the website for more information!

JAPAN SPORTS AGENCY

The Sports Agency promotes sports tourism, in collaboration with the Japan Sports Commission and the Japan Sports Association, to support the development of sports tourism in the country, regionally and internationally.



JAPAN BUDO TOURISM

Kyudo, Kendo, and Swords

Ishikawa Prefecture
Learn about samurai culture and the spirit of bushido Kanazawa Budo Tourism Project

The Kanazawa Budo Tourism Project is a project to promote the spirit of bushido in Kanazawa. The project includes a variety of activities, including Kyudo, Kendo, and Swords. The project also includes a variety of activities, including Kyudo, Kendo, and Swords. The project also includes a variety of activities, including Kyudo, Kendo, and Swords.

Check the website for more information!

JAPAN SPORTS AGENCY

The Sports Agency promotes sports tourism, in collaboration with the Japan Sports Commission and the Japan Sports Association, to support the development of sports tourism in the country, regionally and internationally.

Japan times 広告

①3/21刊行のJapan times紙に1面カラー純広告を掲載。
掲載されているQRコードからJAPAN SPORT TOURISM WEBサイトの
武道ツーリズムページへ誘引。

②3/21Japan times WEBサイトトップページにバナー広告を掲載。
クリックからJAPAN SPORT TOURISM WEBサイトの武道ツーリズムページへ誘引。

●①カラー純広告



●②バナー広告

docomo 9:18

Ohtani interpreter fired for alleged '...

CONNECTED VIA TG BLDG.



thejapan times

investigation.

ADVERTISEMENT



"In the course of responding to recent media inquiries, we discovered that Shohei has been the victim of a massive theft, and are turning the matter over to the authorities," a



実施概要

勉強会の開催目的

武道ツーリズムに係る取組の深化を図るため、スポーツ庁幹部及び施策担当者が有識者(学識者、現場責任者、デジタル関係者等)からご教授いただく場を設け、現状分析・課題抽出及び今後推進すべき事項を整理する。

実施日時等

第1回	◎日時:7/12(水)10:00-11:30 ◎場所:文部科学省16F3会議室 ◎参加者:スポーツ庁長官、次長、審議官、各課課長・室長・参事官等、中京大学スポーツ科学部 伊藤央二先生 ◎講師:株式会社BABジャパン 月刊秘伝編集部 東口敏郎編集長、小川敬司副編集長
第2回	◎日時:8/29(火)14:30-16:00 ◎場所:文部科学省16F3会議室 ◎参加者:スポーツ庁長官、次長、審議官、各課課長・室長・参事官等、中京大学スポーツ科学部 伊藤央二先生 ◎講師:Ageshio Japan株式会社 代表取締役 上田健次郎氏、洪全甲氏
第3回	◎日時:10/6(金)15:00-16:30 ◎場所:文部科学省16F3会議室 ◎参加者:スポーツ庁長官、次長、審議官、各課課長・室長・参事官等、中京大学スポーツ科学部 伊藤央二先生 ◎講師:WAmazing株式会社 代表取締役 加藤史子氏
第4回	◎日時:11/28(火)13:30-15:00 ◎場所:文部科学省16F3会議室 ◎参加者:スポーツ庁長官、次長、審議官、各課課長・室長・参事官等、中京大学スポーツ科学部 伊藤央二先生 ◎講師:沖縄県 文化観光スポーツ部 空手振興課 課長 桃原直子氏
第5回	◎日時:1/22(月)13:30-15:00 ◎場所:文部科学省16F3会議室 ◎参加者:スポーツ庁長官、次長、審議官、各課課長・室長・参事官等、中京大学スポーツ科学部 伊藤央二先生 ◎講師:東京空手ツアーズ合同会社 代表 岩本衣美里氏
第6回	◎日時:2/19(月)13:30-15:00 ◎場所:文部科学省16F3会議室 ◎参加者:スポーツ庁長官、次長、審議官、各課課長・室長・参事官等 ◎講師:中京大学スポーツ科学部 伊藤央二先生

各回の論点の整理

① 第1回勉強会

第1回武道ツーリズム推進勉強会は、株式会社BABジャパンの東口編集長と小川副編集長が講師として参加し、中京大学スポーツ科学部の伊藤央二先生もオブザーバーとして出席した。会議では、武道ツーリズムの歴史と現状に焦点を当て、武道の世界的普及や外国人武道家の日本訪問、最近の武道ツーリズム事例などが紹介された。特に、在日外国人の武道体験や武道ツーリズムの可能性が議論され、外国語指導助手(ALT)なども対象に取り入れる提案が出された。

また、Googleを使用して武道に関するキーワードの検索件数を調査し、武道ツーリズムの認知度や理解度について考察が行われた。

会議の終盤では、今後の武道ツーリズムの推進に向けて、検索露出や定義の明確化、団体やNFとの調整などの課題が指摘されたが、明るい展望が感じられた。スポーツ庁からも武道ツーリズムの重要性が強調され、今後の政府方針に組み込まれることが期待される。また、伊藤央二先生も今後の勉強会に参加し、展開方向を総括する役割を担うことが決定された。

◎ゲスト講師のプレゼンテーション内容

- ・ 武道ツーリズムの歴史と現状が焦点となり、世界的普及や外国人武道家の日本訪問、最近の事例が紹介された
- ・ 在日外国人の武道体験や武道ツーリズムの可能性が議論され、外国語指導助手(ALT)も対象に取り入れる提案が出された
- ・ Googleを使用して武道に関するキーワードの検索件数が調査され、武道ツーリズムの認知度や理解度について考察が行われた
- ・ 今後の武道ツーリズムの推進に向けて、検索露出や定義の明確化、団体やNFとの調整などの課題が指摘され、明るい展望が感じられた姿勢が示された

② 第2回勉強会

第2回武道ツーリズム推進勉強会では、Ageshio Japan株式会社の上田代表取締役と洪取締役が参加し、武道ツーリズムの更なる発展に向けた議論が行われた。会議では、Ageshio JAPAN株式会社のミッションや活動内容について紹介があり、特に沖縄を拠点とする空手ツーリズムの推進が強調された。参加者からは、空手の日や旅前旅後の取組に関する質問があり、空手文化の普及や観光産業への貢献が議論された。

◎ゲスト講師のプレゼンテーション内容

- ・ 沖縄を拠点とする空手ツーリズムの推進が強調された
- ・ 空手文化の普及や観光産業への貢献が議論された
- ・ 武道ツーリズムの将来展望やインバウンド需要の拡大に向けた取り組みが話し合われた
- ・ 参加者間での意見交換や情報共有が行われ、具体的なアクションプランが模索された
- ・ 武道ツーリズムの成長と発展に向けた前向きな姿勢が示された

各回の論点の整理

③ 第3回勉強会

第3回武道ツーリズム推進勉強会は、WAmazing株式会社加藤史子代表取締役が参加した。会議の趣旨は、参事官(地域振興担当)が推進する武道ツーリズムの周知と発展を図り、有識者からの教示を得て現状分析や課題抽出、今後の推進事項を整理することで、武道ツーリズムの存在を広く知らしめ、地方への誘客を促進することが述べられた。

加藤氏のプレゼンテーションでは、スポーツツーリズムの重要性やインバウンド市場の動向について説明した。特に、スキー場のリフト券やレンタル、レッスンを宿泊施設とセットでオンライン販売するサービスや、スポーツ観戦や体験がリピーターを増やすポテンシャルの大きい市場であるとの考えを示した。さらに、2025年の世界陸上や2030年の目標に向けての取り組みに触れ、スポーツイベントの取り組み方によって波及効果があることを強調した。

また加藤氏は、スポーツツーリズムの日本経済における消費波及効果を可視化し、省庁横断で提供する重要性を強調し、予算の増額を促す必要性を述べた。また、中国市場におけるターゲティングの重要性や多様性に触れ、日本と中国の消費者層の違いを指摘した。

◎ゲスト講師のプレゼンテーション内容

- ・ スポーツツーリズムの重要性やインバウンド市場の動向について説明された
- ・ スポーツツーリズムの日本経済における消費波及効果を可視化し、予算の増額を促す必要性を強調された
- ・ 中国市場におけるターゲティングの重要性や多様性について説明された
- ・ 加藤氏のプレゼンテーションを通じて、スポーツツーリズムの可能性や課題について深く考察された

④ 第4回勉強会

第4回武道ツーリズム推進勉強会では、沖縄県の空手振興課課長である桃原直子氏が講師を務め、沖縄県における武道ツーリズムの現状と展望について説明した。空手を通じて沖縄の魅力を広める取り組みや、他のアクティビティも楽しめる点に触れ、沖縄の魅力を支援したいとの意向を示した。

会議では、保育園や幼稚園における空手指導の効果や、空手世界大会の来訪促進イベントについても議論が行われ、さらに、空手の日記念演武祭の開催や空手愛好家の受け入れ体制強化についても言及され、国際交流の促進や技術の継承に取り組んでいることが明らかにされた。参加者からは、滞在日数や段位取得に関する質問があり、長期滞在者は主に段位取得のために訪れていることが説明された。

◎ゲスト講師のプレゼンテーション内容

- ・ 保育園や幼稚園における空手指導の効果について説明された
- ・ 空手の日記念演武祭の開催や愛好家の受け入れ体制強化について説明された
- ・ 国際交流の促進や技術の継承に焦点を当てた取り組みが進められている
- ・ 参加者からは滞在日数や段位取得に関する質問が提起され、長期滞在者は主に段位取得のために訪れていることが説明された
- ・ 沖縄の魅力を広める取り組みや他のアクティビティも楽しめる点が強調された

各回の論点の整理

⑤ 第5回勉強会

第5回武道ツーリズム推進勉強会では、空手フィットネスの可能性に焦点が当てられた。講師の東京空手ツアーズ合同会社岩本衣美里代表は、空手の世界ランク第1位の実績を持ち、空手フィットネスを推進している。空手の稽古をベースにした姿勢・呼吸・瞑想を重視し、空手の魅力を広める活動を行っている。

参加者からは、空手フィットネスと他の種類のフィットネスの違いや、そのコンディショニング効果についての質問があり、岩本氏は骨格や筋肉の違いを考慮した効率的な体の使い方を学びたいニーズがあることを指摘し、空手フィットネスを通じて怪我のリスクが軽減される重要性を強調した。

プログラムの時間は要望に応じて調整可能(10～45分が主流)となっており、レベル別に対応したバリエーションも提供されている。外国人参加者向けに入会費や英語での指導、道着のレンタルなども可能である。岩本氏は今後、全国や世界を回り、多くの人々に空手と空手フィットネスの魅力を伝えたいと述べた。会議では空手フィットネスの健康効果やコンディショニングへの可能性について議論が行われ、空手フィットネスの利点や科学的根拠についても言及した。

◎ゲスト講師のプレゼンテーション内容

- ・ 第5回武道ツーリズム推進勉強会では空手フィットネスの可能性が焦点となった
- ・ 講師の岩本衣美里氏は空手の世界ランク第1位の実績を持ち、空手フィットネスを推進している
- ・ 岩本氏は空手の稽古をベースにした姿勢・呼吸・瞑想を重視し、空手の魅力を広める活動を行っている
- ・ 岩本氏は効率的な体の使い方を学びたいニーズがあることを指摘し、怪我のリスク軽減の重要性を強調した
- ・ プログラムの時間は20分や30分、45分などがあり、レベル別に対応したバリエーションが提供されている
- ・ 外国人参加者向けに入会費や英語での指導、道着のレンタルなども可能
- ・ 岩本氏は今後、全国や世界を回り、多くの人々に空手と空手フィットネスの魅力を伝えたいと述べている
- ・ 会議では空手フィットネスの健康効果やコンディショニングへの可能性、科学的根拠等について議論が行われた

各回の論点の整理

⑥ 第6回勉強会

最終回となる第6回武道ツーリズム推進勉強会は、中京大学の伊藤先生が参加し第1回から第5回目での総括と今後の展望等についてお話いただいた。武道ツーリズムのデータ収集、周知・浸透・発展に貢献するための場を提供し、現状の分析や課題の抽出、今後の推進事項を整備することを趣旨とした。また、インバウンドの促進やマーケティング戦略の重要性が強調され、「武道」と「BUDO」の使い分けなど、外国人への武道ツーリズムの紹介や認知度向上が議論された。さらに、富裕層向けのツーリズムに注力する観光庁の取り組みや、武道ツーリズム参加者のデータ収集の必要性も指摘された。

議論では、武道ツーリズムの認知度向上やイベントを通じた広報活動の重要性が強調され、課題や取り組みについて意見交換が行われた。最終的に、今後のツーリズム関連のコンテンツ事業に議論を反映させることが計画され、参加者は今後の展望に向けて意見を交換した。

◎伊藤央二先生のプレゼンテーション内容

- ・ インバウンドの促進やマーケティング戦略の重要性が強調された
- ・ 漢字の「武道」とローマ字の「BUDO」の使い分けについての指針を示された
- ・ 外国人への武道ツーリズムの紹介や認知度向上が議論された
- ・ 観光庁が富裕層向けのツーリズムに注力している取り組みが紹介された
- ・ 武道ツーリズム参加者のデータ収集の必要性が指摘された
- ・ 武道ツーリズムの認知度向上やイベントを通じた広報活動の重要性が強調された
- ・ 今後のツーリズム関連のコンテンツ事業に議論を反映させる計画が立てられ、参加者は今後の展望に向けて意見を交換した

今後の施策に向けた提案

以上の議論を踏まえ、各回で提案された武道ツーリズム推進に向けた取り組みアイデアを以下の通りまとめる。

① 第1回勉強会で提案された取り組み案

- 在日外国人向けに武道体験プログラムの提供
- 外国語指導助手(ALT)を対象とする
- 子供たちが武道を体験するためのプログラムの提供
- 学習的旅行者という視点を盛り込むことを通じて、自己実現を図る旅行者向けのプログラムの提供

② 第2回勉強会で提案された取り組み案

- 外国人向けに空手ツアーをガイドできる人材の育成
- 経験者や中級者向けに、古武道の基本を学ぶ機会を提供し、習熟度に合わせたコンテンツの提供
- 一度来訪した観光客に対して動画コンテンツの提供やWebトレーニングの実施を通じて、学んだことを維持できるコンテンツの提供

③ 第3回勉強会で提案された取り組み案

- 長期滞在型の武道体験プログラムの提供や、本場の師匠からの指導を受ける機会の創出
- ラーニングの認定や、1ヶ月などの長期滞在プランの提供
- スキーとは異なる武道の特性を踏まえ、利用者のニーズに合ったプログラムやサービスの提供
- 武道ツーリズムの市場開拓において、武道に関心を持つアジア圏の利用者に焦点を当てる

今後の施策に向けた提案

④ 第4回勉強会で提案された取り組み案

- 長期滞在者向けに段位取得の機会を提供することで、滞在をより意義深いものにする
- 平日の活用を促進するため、1週間通しでの取り組みや通訳サービスの提供を検討
- 多言語ガイド養成事業を通じて外国人観光客へのサポート体制を強化し、国際交流を促進
- 空手ツーリズムプロモーション動画や教材の制作
- 沖縄空手の普及と技術の継承を図るため、空手愛好及び観光客受け入れ支援を強化

⑤ 第5回勉強会で提案された取り組み案

- 外国人観光客向けに空手フィットネスプログラムを提供し、日本の武道文化を体験できる機会を提供する
- 空手フィットネスを通じて初心者やライト層が空手に興味を持ち、本格的な空手に取り組む姿勢に繋がる可能性がある
- 大手フィットネスクラブに空手フィットネスプログラムを導入することで、世界的に広まる可能性がある
- 武道ツーリズムが日本らしさを表現する手段として、国や地域、性別、年齢、所得層などを考慮したマーケティング戦略が重要

⑥ 第6回勉強会で提案された取り組み案

- インバウンドツーリストには、エンターテインメント性の高い武道を提供することで興味を引き、結果的に競技志向の武道思考を促すことができるのではないかと
- 武道ツーリストを未経験者、中級者、上級者などのグループに分けて考え、それぞれのニーズに合ったサービスを提供することが重要

論点整理

ターゲット及びプロモーション手法の整理

第1回から5回までの勉強会では具体的なターゲットや取り組み案についての事例が多く、それぞれターゲットを整理のうえターゲットの説明とプロモーション案としてまとめた。

第6回の勉強会では伊藤央二先生により武道ツーリズムの体系的な説明とポイントをまとめられており、本報告書ではこれを参考に商流に沿った4象限のアクションに整理した。

①具体的なターゲット及びプロモーション案

ターゲット	説明	プロモーション案
ターゲット① 日本に滞在中の 外国人観光客 (旅ナカ)	- 日本の武道文化を体験したいという興味を持っている。 - 空手や古武道などの武道を通じて、日本の伝統文化に触れたいと考えている。 - 子供たちを含む様々な年齢層の観光客が含まれる。	- オンライン広告: 日本の観光サイトや旅行関連ウェブサイトでターゲットに合わせた広告を配信。 - 観光案内所での宣伝: 主要な観光地の案内所で、武道体験プログラムのパンフレットやポスターを設置。 - SNS キャンペーン: インスタグラムやFacebookなどのSNSで、体験者の投稿を活用してプログラムの魅力を発信。
ターゲット② アジア圏の参加者 (旅マエ)	- アジア圏からの参加者に焦点をあてる。 - 長期滞在型のプログラムや本場の師匠からの指導など、より深い武道体験を求める層が含まれる。 - インバウンドツーリストにはエンターテインメント性の高い武道を提供し、競技志向の武道思考を促すことが考えられる。	- 地域特化のウェブ広告: アジア圏の主要な旅行サイトやコミュニティサイトで、武道体験プログラムを紹介する広告を展開。 - アジア圏向けSNS広告: 中国のWeChatや韓国のカカオトークなどのSNSプラットフォームで、ターゲットに合わせた広告を配信。 - アジア圏の武道イベントへの出展: アジア圏の武道関連イベントに出展し、プログラムを宣伝し関心を喚起。

論点整理

ターゲット	説明	プロモーション案
ターゲット③ 外国語指導助手 (ALT)や留学生など (在日外国人)	日本に滞在する外国語指導助手(ALT)や留学生などを対象にも取り入れる。	- 学校訪問とプレゼンテーション: ALTや学校を訪れ、武道体験プログラムを紹介し、参加を促すプレゼンテーションを行う。 - 教育機関との提携: 外国語学校や大学と提携し、留学生向けにプログラムを紹介する。 - インターネットフォーラムやコミュニティ: 留学生が集まるオンラインフォーラムやコミュニティで、プログラムを紹介し口コミを促す。
ターゲット④ 未経験者から 上級者までの 武道愛好家	初心者、中級者、上級者などのグループに分けて考え、それぞれのニーズに合ったプログラムやサービスを提供する。	- 武道雑誌やブログへの広告掲載: 武道雑誌やブログでプログラムを紹介し、興味を持った読者を誘導する。 - 武道関連イベントへの出展: 武道関連の大会やセミナーなどで、ブースを出展しプログラムを紹介する。 - オンラインコミュニティの活用: 武道愛好家が集まるオンラインコミュニティやフォーラムで、プログラムを紹介し交流を深める。
ターゲット⑤ フィットネス志向 の層	- 空手フィットネスプログラムを通じて、初心者やライト層が興味を持ち、本格的な空手に取り組む姿勢に繋がる可能性がある。 - 総じて、武道ツーリズムのターゲットは、日本の武道文化に興味を持つ外国人観光客やアジア圏の利用者、武道愛好家、フィットネス志向の層など多岐にわたる。 - それぞれの層に合わせたプログラムやサービスの提供が求められる。	- フィットネスクラブとの提携: 大手フィットネスクラブと提携し、空手フィットネスプログラムを導入し会員に提供する。 - 健康関連ウェブサイトや雑誌への広告掲載: 健康やフィットネスに関するウェブサイトや雑誌で、プログラムを宣伝し興味を引く。 - フィットネスイベントへの参加: フィットネスイベントやワークショップで、空手フィットネスプログラムを紹介し体験させる。

実施報告

②商流に沿ったアクションの整理

市場	BtoC	BtoB
国内	・ 武道の舞台裏を見せるなど、日本人に対して武道ツーリズムの体験を促進し国内参加を促すことで、外国人との交流や参加者増などの効果が期待できる(第6回) ・ 教育旅行や修学旅行などの機会を活用して武道ツーリズムを導入することで持続的な武道ツーリズムの普及につなげる(第1回) ・ 富裕層向けの施設で武道ツーリズムを体験できるプログラムを展開することで、影響力のある富裕層の需要を掘り起こし、国内需要拡大につなげる(第1・6回)	・ 旅行会社との提携を強化し、旅行会社が有する顧客ニーズに対応できる武道ツーリズムプランを企画・提供することで国内旅行者の取り込みにつなげる(第2回) ・ ツーリズムEXPOジャパン等を活用し、旅行会社向けに武道ツーリズムの魅力やプログラムの情報を提供、商談を通じてニーズを拾い、プログラムの磨き上げを行うことで旅行商品の造成につなげる(第3回) ・ 受入側は武道ツーリズムに特化したガイド育成に取り組むことで安心して送客できる体制を整え、商品造成やコンテンツ数の拡大につなげる(第2・4回)
海外	・ 武道ツーリズムは真剣な修行の場、BUDOツーリズムはライトな体験を重視するなど、「武道」と「BUDO」の棲み分けを明確にすることで、戦略を整理し、関係者の連携が図りやすくなる(第5・6回) ・ インターナショナルスクールや外国人向けの施設で武道ツーリズム体験を提供し在日外国人の口コミ効果を狙う(第1回) ・ 海外での発表やプロモーションを積極的に行い、インバウンドツーリズム向けに魅力を発信することで旅行商品造成につなげる(第4回) ・ オンライン道場サービスや動画センシング技術を活用した取り組みを通じて、旅行前後でも武道ツーリズムを推進することでリピート需要を取り込む(第2回)	・ 武道ツーリズムに特化したパッケージツアーを海外の旅行会社に提供し、日本への旅行者に武道体験の機会を提供することで武道ツーリズムのすそ野の拡大を図る(第3回) ・ そのためには、海外の旅行会社に対して「武道」と「BUDO」の棲み分けを明確にすることでターゲットの違いと販売方法の違いを説明し、商品造成の方向性を明確にすることで造成促進につなげる(第6回) ・ 「武道」「BUDO」それぞれで海外の旅行会社とのパートナーシップを構築し、武道ツーリズムプランを提供することで持続的な商品造成につなげる(第6回) ・ 受入側はターゲットを初級者、中級者、上級者に分けてコンテンツを整理し、幅広いニーズに対応できる環境を整える(第2・5回)

まとめ

武道ツーリズム推進勉強会では、武道ツーリズムの認知度向上やイベントを通じた広報活動の重要性が示され、インバウンドの促進やマーケティング戦略の重要性も併せて指摘された。また、外国人への武道ツーリズムの紹介や認知度向上などに課題を残しているほか、武道ツーリズム参加者のデータ収集など、エビデンスベースで議論を進めるためのデータを整備することが重要であるとの認識を共有した。

インバウンドツーリストには、エンターテインメント性の高い武道を提供することで興味を引き、競技志向の武道思考を促すこと、武道ツーリストを未経験者、中級者、上級者などのグループに分けて考え、それぞれのニーズに合ったサービスを提供することが重要であるとされた。また、武道ツーリズムが日本らしさを表現する手段として、国や地域、性別、年齢、所得層などを考慮したマーケティング戦略が重要であることが提案された。最後に、これらの取組みが実行されることで、武道ツーリズムのさらなる発展や多様なニーズに対応したサービス提供が可能となるとしている。

以上の様に、6回にわたる武道ツーリズム推進勉強会では様々な議題が取り上げられ、武道文化の普及や観光産業への貢献、インバウンド需要の拡大などが話し合われ。さらに、ゲスト講師や参加者間での意見交換や情報共有が行われ、具体的なターゲットやアクションプランが模索された。

今後も武道ツーリズム発展に向け、関係者間の情報共有及び戦略共有を行う場を設けることで、武道ツーリズムのさらなる発展が期待できるものとする。

第1回勉強会資料

月刊秘伝



スポーツ庁「武道ツーリズム勉強会」第1回

**武道武術専門メディアからみた
「武道ツーリズム」の歴史と現状**

2023年7月12日
BABジャパン／月刊秘伝

1

月刊秘伝

History of BUDO TOURISM

本日の演題

第1部 日本武道の世界普及
第2部 外国人武道家の日本武者修行
第3部 「武道ツーリズム」の現状／事例紹介
第4部 今後に向けての課題／提言



2

月刊秘伝

武道武術の秘伝に迫る 月刊「秘伝」とは?

- 国内唯一の古武術専門誌として1990年に創刊。以来30年以上にわたり、出版を続けている
- 日本の古武術から現代武道、中国武術、海外格闘術、護身術、忍術、身体操作、療術まで、多分野を網羅。古今東西の身体智から最新の科学的知見までを毎月発信
- 関連武道武術書籍やDVDも多数制作（※800タイトル以上）
- 公式YouTubeチャンネル「BUDO JAPAN Channel」（※2009年1月～登録者数：11.4万人、856本の動画公開）
- 公式サイト「WEB秘伝」やSNS（Facebook, twitter, Instagramなど）でも情報発信中
- 師範を招いての講習会など、リアルイベントも多数開催
- 海外の武道愛好家とつながる英語ポータルサイト「BUDOJAPAN.com」（※公式FBフォロワー数36万人）も2015年より本格的に運営開始。英語字幕での映像教材（100本以上）や運動記事を配信

3

月刊秘伝

from JAPAN to the WORLD

第1部 日本武道の世界普及

【序】黄金の国ジパングとサムライの国（～1899年）
【case1】柔道・柔術の世界普及（1900年代～）
【case2】合気道の世界普及（1940年代～）
【case3】空手道の世界普及（1960年代～）
まとめ

4

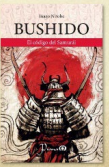
月刊秘伝

【序】DISCOVER JAPAN 黄金の国ジパングとサムライの国

- 【鎌倉時代】イタリアの商人マルコ・ポーロ「東方見聞録」→ 黄金の国ジパング
- 【戦国～幕末時代】イエズス会修道士ルイス・フロイス「日本史」や、イギリス駐日公使館通訳生アーネスト・サトウ「外交官の見た明治維新」らが記録した「武士道の精神」
- 【明治時代】新渡戸稲造「武士道」（1899年英語）→ 多言語へ翻訳出版され、世界的ベストセラーへ



「武士道」は海外における近代の日本理解に多大な影響を与えた



5

月刊秘伝

【case1】柔道・柔術の世界普及

- 明治維新後、職を失った柔術家が活躍の場を求めて海外へ渡航（1900年代～）
- 天神真流・谷幸雄（スモールタニ）、不遇流・三宅多留次（タロミヤケ）、講道館・前田光世（コンデ・コマ）など → 西洋レスリングとの邂逅 → 現地スクール開設
- 「柔（やわら）」の柔より剛を制する技法、活法への驚き



柔道の実用性、体育性、競技性、教育性などが認められ、柔道の世界スポーツ化へ

柔道のオリンピック種目化

※備考：前田光世がブラジルに伝えた柔術も、その後、「ブラジリアン柔術」として世界普及、柔道と双璧をなす人気スポーツへ！

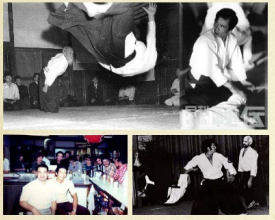


6

月刊秘伝

【case2】合気道の世界普及

- 間道・植芝盛平の直弟子たちが、二代道主・植芝吉祥丸の命を受け、1950年代から「戦わぬ武道」として合気道の海外普及を開始
- 多田宏（イタリア）、千葉和雄（イギリス）、田村信孝（フランス）、小林保雄・遠井勝昭（ドイツ）、山田嘉光（ニューヨーク）、など
- 文化的背景の理解がない当時の状況での普及の困難さ



現在、世界の合気道人口200万人、約140の国と地域に組織・団体がある

→ 試合を行わない「和合の武道」として独特の地位を獲得

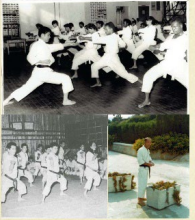


7

月刊秘伝

【case3】空手道の世界普及

- 沖縄→船越義珍により本土へ（1922年）→ 1960年代以降 日本空手協会指導員などがヨーロッパ各国へ派遣
- ドイツなどで指導に当たった「Sensei KANAWAZA」金澤弘和（松澤館流）や、イギリスで和道流を伝えた鈴木展夫、東南アジアやオーストラリアで本土剛柔流を伝えた「ザ・キャット」山口剛玄、アメリカの西山英蔵など多数
- アメリカの拳合、沖縄と日本本土で空手を習得した米軍軍人たちが伝えた。その他、沖縄系移民（ハワイ、南米）など。※その他剣道などでは、戦地駐在員などの貢献も大。
- 1970年代の世界的なブルースリーブームで、空手も大人気に
- 護身防犯（一撃必殺）と哲学的部分（「空手に先手なし」ムービング神）の魅力



現在、愛好者数は1億3000万人以上、世界193の国と地域で普及（出典：沖縄県（統計トピックス））

「WKF」（世界空手連盟）が統括する世界的な KARATE 競技としても普及（※2020東京オリンピック採用）



8

第1回勉強会資料

第1部【日本武道の世界普及】まとめ

WEST meets EAST!
日本人武道家たちの海外遠征

神秘に満ちた
日本武道の奥奥に魅れ、
知り、学ぶ機会が創出！

日本武道の武技（術＝Skill）としての
有効性、精神性（道＝the way of life）が
認められる

合わせて、日本独自の礼法や
武士道、侍文化も広まり、
日本国のイメージアップにもつながる

武道愛好家の増加により、武道の世界的スポーツ化も
迅速にすすんでいる！

9

第2部 海外武道家の日本武者修行

- 【case1】海外古武道／古武術家の日本修業
- 【case2】海外空手愛好家たちの日本修業
- 【case3】空手誕生地“沖縄”での武者修行
- 【case4】海外合気道家たちの本部内弟子修業
- 【case5】その他の日本武者修行と海外事例
まとめ

10

【case1】海外古武道／古武術家の日本修業



- ドン・ドレーガー (Donn F. Draeger, 1922-1982) の日本修行
- 講道館系道流をはじめ、神道夢想流武術、香取神道流など幅広く日本で修行し（1960年代～）、そのすべてにおいて達人の域に達している。ドレーガー氏は生涯30冊以上の著作を残し、日本武道を海外へ紹介した草分け的存在。

日本武道の源流（古武道）への関心を開いたパイオニア

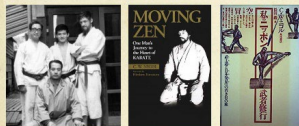
ドレーガーに続く、海外古武術指導者
第二／第三世代の活躍！
※BUDOJAPAN.com「Worldwide Koryu Dojo Report」
※秘伝23年7月号掲載記事参照

→世界の古武道場100箇所、6000人（推定）、日本の古武道演武大会参加者（約150人）を超える人数？



11

【case2】海外空手愛好家たちの日本修業



- 小説家C・W・ニコル 1962年に空手道（松澤館）を学ぶために来日。その後、日本永住
- 書籍『Moving Zen』※英語、『私のニッポン武者修行』(角川選書(176))※日本語

現在でも多くの空手修練者が、世界中から日本の本部（空手四大流派やその他団体）をめぐっての合宿や講習会へ参加しに、毎年訪れている（※コロナ前、数百人単位）。

事例1 日本空手協会「国内外合同合宿」
(※秘伝18年8月号記事)

事例2 日本空手松連連「国際講習会」
(※秘伝19年5月号記事＆動画紹介)
動画リンク <https://youtu.be/EHxHr4X2es>

12

【case3】空手誕生地“沖縄”での武者修行



- 空手の世界普及に伴い、空手発祥の地（源流への回帰）として、「沖縄空手」への関心が高まる
- 生涯空手として沖縄空手（型）を学びに長期（1ヶ月程度）来琉するケース多数
- 「リタイア」の文化が重なる欧米に比べて、沖縄空手の師範は80代、90代でも現役で稽古を続ける
→歳を経ても尊敬されるのは「宗教家 or 武道家」

「第1回沖縄空手国際大会」(2018年8月1日～7日)
※世界49カ国から1200人以上（延べ2300名）が型競技、セミナーなどに参加。（※秘伝2018年12月号記事）

・ミゲル・ダルーズ（沖縄空手家内センター広報）
・ダニエル・マードン（秘伝連載「沖縄空手道場訪問録」筆者、空手家＆セラピスト）
・ジェームズ・バンギコビッチ（DOJO BAR店主、イギリス出身空手家）



13

【case4】海外合気道家たちの内弟子修業

- 合気道本部道場へ訪れた初期外国人内弟子たち
- アンドレ・ノケ(1955年来日)、クリスチャン・ティシエ（現在世界で最も著名な合気道指導者、1969年来日）、スタンレー・フランシス（日米雑誌「合気ニュース」発行人）、スティーブン・セガール（俳優）、ギョーム・エラル（合気道研究家日本からHPや動画で合気道情報を世界発信）など。

→彼らが母国へ戻り、またメディアを通して一次情報を発信するなど、世界における合気道普及に果たした貢献は大きい！



- 「第十回国際合気道大会」(2008年10月6日～12日、開祖の生誕地・和歌山県田辺市) ※海外からの参加者600名

→競技化とは異なる道を歩んだ合気道では、発祥の地として日本（和歌山県田辺、茨城県岩間）の重要性が高い！

14

【case5】その他事例

日本武道館「第24回 国際武道文化セミナー『武道の教養力』」

- 日本留学中の外国人留学生及び在日大使館などに勤務する外国人を対象に、日本武道の理論・技術・歴史・文化などについての幅広い講義と時代武道全日本の秘伝講座を設けた武道文化セミナーを開催。会場：日本武道館研修センター（千葉県勝浦市武蔵582）

(※秘伝2012年6月号記事紹介)

千葉県野田市に海外弟子が集結！初見良昭宗家の武神館道場

- 1958年に古武術九流派を受け継ぎ、1970年代に千葉県野田市で「武神館」武道を創設。世界中へ海をへり、空手ブームとも相まって、今では世界50カ国に道場が存在。弟子の数は40万人以上とも、千葉道場がある千葉県野田市には、世界中から弟子たちが訪ね、通常の稽古には国内外からの100人もの弟子たちで埋め尽くされている。

【国外参考事例】：伝統武術を国策とした中国

- 映画『少林寺』(ジェット・リー・コ、李連杰(リー・リン・チエ)主演、1981年公開)の世界的大ヒットを機に、嵩山少林寺周辺に現在では80校もの空手道場が設立され、観客も増加。また、その以前より中国国策として「24式太極拳」を規定し、健身のための普及や、世界規模の競技大会「武術(ウーシュウ)」開催へ。



15

第2部 海外武道家の日本武者修行 まとめ

日本での武者修行＝武道ツーリズム
※古くは江戸時代の廻国武者修行も「武道ツーリズム」であった！

外国人武道修練者において日本での修業は、いわば「聖地巡礼」的な意味合いも含め、特別な体験であり続けている

日本での修業の模様やその実際は、外国人武道家第一世代たちにより書籍などのメディアを通して、広く正しく海外へ伝えられ、第二、第三世代のさらなる武道愛好家の増加に寄与している

但し、コア層における日本での武道修業はこれまでも盛んに行われてきたが、その多くは、自派における縦のラインに基づいたものであり、横の広がり（他流派、他ジャンルの武道体験）につなげていない

16